

韓国石油公社が進める規模拡大戦略

戦略・産業ユニット石油・ガス戦略グループ
研究員 キム ビョルフア

サマリー

韓国の国営石油会社である韓国石油公社(Korea National Oil Corporation: 以下 KNOC)は2008年6月に、2012年までに石油・ガスの生産量を6倍、埋蔵量を5倍拡大することなどを含む規模拡大戦略を発表した。

石油資源をほぼ全量海外に依存している韓国は、エネルギー安全保障のために海外資源開発支援の強化のための政策整備を進めており、KNOCの規模拡大もその一環として進めている。韓国企業による上流進出における特徴点としては、資源国が必要とするエネルギーインフラや社会資本などの整備を支援しながら資源を確保するという「パッケージ型」が挙げられる。国営会社であるKNOCは、このような海外進出にも主導的な役割を果たしている。

KNOCの成長戦略の具体的な内容としては、探鉱区より生産鉱区の確保、石油開発企業の買収、エンジニア増強や技術水準の引き上げなどが挙げられる。KNOCの大規模化が計画通りに進むと、韓国の石油供給の自主開発比率の増加も実現できると思われる。しかし、原油価格下落をきっかけに他のアジアNOCも資源確保に積極的に動いている。競争が激化するなかで、KNOCが開発会社の買収に成功した場合でも、合併後の統合(Post Merger Integration)という課題も残るなど、今後の帰趨が注目されている。

以上